

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2015. 5. 11◆◆◆

施設の建設から保全における営繕について

建物の建設は、面的・線的な整備と異なり、比較的短期間で敷地の中で完結してしまうことから、ダイナミックさに欠ける面がありますが、施設自体が公衆の利便や公務の能率向上を図るとともに、施設によっては災害対策拠点となるものやまちづくりの核として位置づけられる施設もあり、その位置・規模・構造等によっては地域にとってインパクトのある施設ともなり得ます。

さまざまな施設を効率的、効果的に整備していくうえでは、3つの段階において重要な点があります。計画段階においては、入居官署や関係官署等との連携を図り、行政ニーズ、社会的ニーズ等を把握し適切に反映させることです。設計段階においては、コスト意識を持ちつつ、丈夫で長持ち、使いやすい施設とすることが大切であり、施工の各段階においては、仕様書から使用材料・施工条件等を確認しつつ、丁寧につくっていくことが重要な点です。これらのことを日常の業務の中で実施しているところです。

また、ひとたび施設が完成し入居する官署に引き渡されれば、その後の維持管理は、施設管理者が主役になり実施していくこととなります。かといって、営繕サイドは何もしないわけではなく、私の経験では、外壁落下事故を発端とした点検方法等の情報提供や京都議定書に係る地球温暖化対策の関連情報の提供等について、施設管理者に対して行ったりしました。現在においても、随時、施設保全の適正化を図るための各種の情報提供等を行っており、施設を末永く良好な状態で使って頂くための支援を行っています。

昨今、高松サポート合同庁舎（南館）の着工をはじめ、施設の新営や改修工事が幾つか計画されておりますが、入居官署の業務を支え地域に根ざした施設となるよう、建設だけでなく施設保全の支援等を行っていきたく思いますので、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

四国地方整備局
営繕部長 山本 徹

■東日本大震災4年パネル・映像展を開催

【企画部 企画課】

平成27年3月11日で東日本大震災から4年経過したことに合わせて、東日本大震災を忘れないため、東北地方整備局の協力のもとパネル・映像展を開催しました。

開催期間：平成27年2月23日～4月1日までの9時～17時（土日祝日は閉館）

場 所：サポート合同庁舎低層棟1階 アイプラザ

今回のパネル・映像展は、日頃から頻りに合同庁舎に訪れない方にもこれらの展示をご覧いただくため、1ヶ月以上の長期に渡って同じ場所で開催したものです。

今回の展示については各メディアに紹介されたため（毎日新聞記事（3/12）、NHK四国ローカルニュース（3/11）、KSBローカルニュース（3/12））一般の方にもご来場いただきました。

■一般国道56号 宇和島道路が全線開通

【大洲河川国道事務所】

高規格幹線道路「宇和島道路」の最後の整備区間だった津島高田ＩＣ～津島岩松ＩＣ間（３．５ｋｍ）が３月２１日に開通しました。昭和５９年の事業化から３０年余りを経て、宇和島北ＩＣ～津島岩松ＩＣを結ぶ１７．５ｋｍが全線開通しました。

代替路が無かった宇和島圏域の国道５６号の渋滞緩和、緊急車両の到達時間短縮、災害時の復旧・物資輸送に必要な信頼性の高い「命の道」として大きな役割が期待されています。

開通式典には、地元選出国會議員をはじめ自治体関係者など約２００人の方々に参加いただき、西村国土交通副大臣より「本日の開通を迎えるにあたって、用地協力者をはじめとする関係者の方々からの多大なご支援・ご協力に心から感謝を申し上げます。」との挨拶の後、愛媛県知事挨拶、宇和島市長挨拶、来賓祝辞、事業経過報告、利用者の声、祝電披露が行われました。

現地セレモニーでは地元住民の方々約５００人の参加のもと、地元津島中生の吹奏楽を皮切りに、テープカット、くす玉開披、津島高生チアリーディングの演技、牛鬼、樹根太鼓、餅撒きと続き、県警パトカー先導による活魚運搬トラック、キッチンカー、消防車、救急車、緊急車両記念パレードが行われました。

■高知東部自動車道 高知南国道路（高知南ＩＣ～なんこく南ＩＣ）が開通
～津波でも浸水しない災害に強い道路の形成～

【土佐国道事務所】

土佐国道事務所が平成１３年度より工事を進めてきた高知東部自動車道・高知南国道路（延長１５ｋｍ）のうち、高知南ＩＣ～なんこく南ＩＣ間（延長４．７ｋｍ）が完成し、平成２７年３月２２日（日）に開通式典・現地セレモニーが開催され、同日午後５時半に開通しました。

今回の開通により、津波災害時に孤立の恐れがあった第３次医療施設（高知医療センター）は孤立を避けることができ、災害に強い道路が形成されます。また、高知市中心部の渋滞箇所を回避できる高知新港や沿岸部への新たなルートが確保され、浦戸湾周辺に集積している物流施設・産業団地・観光施設等へのアクセス性が向上します。

なお、開通式典には、地方選出の国會議員の方々や高知県、近隣市町村の関係者など約２００人の方々にご参加頂きました。主催者である高知県知事、高知市長、南国市長、四国地方整備局長の挨拶の後、来賓祝辞、事業経過報告、祝電が披露されました。

また、開通式典に引き続き、現地セレモニーでは大勢の地元住民の方々の参加のもと、介良中学校吹奏楽部による演奏を皮切りに、テープカット、くす玉開披、風船飛ばし、よさこい踊り、開通記念パレード、餅まきが行われました。

平成２７年度には、「なんこく南ＩＣ～高知龍馬空港ＩＣ」の開通を予定しており、土佐国道事務所としては、この実現にむけて整備を進めてまいります。

■一般国道１１号 大内白鳥バイパス
（東かがわ市白鳥～川東 延長２．１ｋｍ）が部分開通

【香川河川国道事務所】

香川河川国道事務所が平成１２年度から整備を進めてきた「一般国道１１号 大内白鳥バイパス」のうち、東かがわ市白鳥～東かがわ市川東間の延長２．１ｋｍが昨年度に続き暫定２車線で完成し、平成２７年３月２９日（日）の午後３時に開通しました。

当日は、午前１０時より東かがわ市交流プラザにおいて、香川県、東かがわ市、香川
ページ(2)

河川国道事務所の主催で開通式典を執り行いました。式典には、国会議員、香川県知事、東かがわ市長、及び関係者など約170名の方々にご出席いただきました。

式典は、はじめに主催者である香川県知事、東かがわ市長の挨拶に続き、四国地方整備局長よりお礼が述べられた後、来賓の方々より祝辞をいただき、事業経過報告や祝電が披露されました。

開通式典の後、現地に移動して行われた開通セレモニーは白鳥中学校吹奏楽部による演奏ではじまり、白鳥小学校の児童も参加した「テープカット・くす玉開き」、また開通記念パレードが執り行われました。式典終了後は、地元の皆様方に参加いただき「ウォーキング」も行われました。

今回の開通により、地元産業の物流円滑化による地域経済のバックアップをするとともに、バイパスへの交通転換による国道11号の事故減少が期待されます。今後は、早期全線開通に向けて、鋭意事業を進めてまいります。

■「川崎床固工・川崎水辺の楽校」完成式について

【四国山地砂防事務所】

平成18年度より整備を進めてきた「川崎床固工・川崎水辺の楽校」が完成し、平成27年3月29日（日）に、徳島県三好市池田町川崎の三好市立川崎小学校体育館において、地元関係者、国会議員、主催者（三好市、徳島県、四国山地砂防事務所）、約150名の参加のもと、完成式典が執り行われました。

「川崎床固工・川崎水辺の楽校」の施工地である川崎地区は、吉野川と支川祖谷川の合流点に位置し、川の流れの変化が激しく、周辺一帯は急峻な地形であり、河床の安定化、地山の浸食防止を図る必要がありました。

また、当該地区は、豊かな自然と清流を有しており、地域の人々に親しまれる空間となっています。そのため、四国山地砂防事務所と三好市が協働して、「水辺の楽校プロジェクト」を活用し、四国山地砂防事務所は床固工及び護岸工等の基盤整備を、三好市は市内外の方が水辺に親しんでもらえるようにトイレやベンチ等の施設整備を実施しました。

完成式典では、川崎獅子太鼓の記念演舞が地元川崎地区の皆様より行われ、徳島県知事（代理：政策監）、三好市長、四国地方整備局長（代理：河川部長）からの主催者挨拶、地元選出の国会議員、三好市議会議長及び国土交通本省水管理・国土保全局砂防部保全課長から祝辞を頂き、大利川崎護岸工事期成同盟会会長からの謝辞、四国山地砂防事務所長より川崎床固工・川崎水辺の楽校の事業経過の報告を行いました。

完成式典後には、川崎床固工・川崎水辺の楽校へ移動し、式典出席者に加え、川崎小学校6年生2名にご参加頂き、完成記念セレモニー（テープカット）が行われ、セレモニー後には、完成記念イベントとして、地元主催による記念植樹や記念碑の除幕式が行われました。

四国山地砂防事務所では、安全で安心して暮らせる地域を実現するため、砂防事業・地すべり対策事業を地域と一体となって引き続き進めていきます。

■平成27年度「水防月間」の実施について

【河川部 水災害予報センター】

水防月間とは、昭和61年の台風10号による出水の際における懸命な水防活動を契機として、水防活動が極めて重要であることが再認識されたため、昭和62年度から毎年出水期前の5月（北海道は6月）を水防月間とし、水害から国民の生命と財産を守るため、出水期を前にした水防体制の強化を図るとともに水防の重要性を国民に周知すること等を目的として各種の行事を実施しているものです。

1. 【運動のテーマ】

“洪水から守ろうみんなの地域”

2. 〔水防月間の重点〕

- 1) 水防の重要性の普及と水防訓練の実施
- 2) 水防体制の強化
- 3) 河川管理施設等の巡視、点検及び整備等

平成27年度「水防月間」の取り組み

1) 肱川総合水防演習【平成27年5月31日(日)9:00～12:00】

洪水による水害の発生を未然に防止するため、国土交通省、愛媛県、水防管理団体である地元市町、地域住民、企業等の関係者が「水防技術の習得、情報の伝達、住民避難、人命救助、ライフラインの復旧」等の演習を行うことで、演習の参加者を含む多くの地域住民に水防に関する基本的な考え方の普及および水防意識の高揚を図ることを目的に演習を実施します。

開催場所：愛媛県大洲市若宮地先（肱川右岸河川敷）

2) 洪水対応演習【平成27年5月19日(火)9:00～17:00】

出水時等の洪水予報・水防警報、ダム放流情報、海岸・土砂災害情報など防災情報の関係機関への迅速かつ適確な伝達、連絡を行い、防災体制の万全を期することを目的に総合的な洪水対応演習を実施します。

参加機関：国、県、市町村、(独)水資源機構、電源開発(株)、四国電力(株)、住友共同電力(株)

3) 水防管理団体との連絡会及び重要水防箇所の合同巡視

洪水時に迅速かつ的確な水防活動の実施が図られるよう巡視を行い、重要水防箇所の周知徹底を図るとともに、水防に必要な情報交換等を行います。

その他、以下のとおり実施することとしています。

- ・水防技術講習会
- ・樋門等操作員説明会
- ・ダム放流警報周知会
- ・河川管理施設の点検整備
- ・災害対策用機械の操作訓練

■徳島小松島港沖洲外地区耐震岸壁完成式

【小松島港湾・空港整備事務所】

平成21年度より小松島港湾・空港整備事務所と徳島県が整備を進めてきた徳島小松島港沖洲外地区 複合一貫輸送ターミナルのうち、耐震強化岸壁及び水域施設（泊地、航路泊地）が完成し、去る3月21日に国会議員、県議会議員、周辺自治体関係者及び工事関係者など、約120名の出席のもと完成式を執り行いました。

新しいターミナルの整備により15,000tクラスの船舶接岸が可能となり、トラックの積載可能台数が120台から190台に増加するなど、物流の効率化や、貨物の増加を通じて、経済活動の活性化が期待されます。

また、耐震強化岸壁の完成により、震災後早期に緊急物資等を海上から搬入することができることとなる等、震災後の物流機能の確保を通じて地元の経済活動を支えることが可能になります。

完成式では、まず、四国地方整備局次長より「本日、このように盛大な式典を挙行
ページ(4)

いきいき四国ー5月配信版.txt

することができますのも、ご臨席の皆様をはじめとして地元関係者の並々ならぬご尽力・ご支援の賜であり、この場をお借りいたしまして、深くお礼申し上げます」との挨拶があり、続いて徳島県知事の挨拶と来賓の方々より祝辞をいただきました。

その後、来賓紹介、祝電披露、事業概要説明、地元代表挨拶、入港記念盾贈呈を行い、式典のフィナーレとして、完成した岸壁上において徳島市沖洲小学校の生徒とともに、ファンファーレを合図にテープカットを行いました。

当日は、この完成式に引き続き、海上自衛隊の掃海母艦「ぶんご」乗組員と徳島小松島港機能継続連絡協議会会員による緊急物資搬入訓練が行われ、「ぶんご」のクレーンを使用して岸壁に降ろした緊急物資が次々と地元荷役企業のトラックに積み込まれ運搬される様子を、完成式に参加いただいた皆様に見学していただきました。

今回の岸壁完成に引き続き、徳島県が整備する埠頭用地及び、フェリー運航会社が整備する旅客ターミナルビル等が平成27年以内に完成し、大型化したフェリーが順次就航する予定となっています。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

***** 「いきいき四国通信」事務局 *****
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】石井（内3126）、仙波（内3176）
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》